

平成30年度 「特別支援」専門部活動報告

<鶴岡養護学校の実践について>

レポートタイトル 作業学習 高等部窯業班

「心をこめて、作ろう・売ろう わくわくバザー」

～よい製品（皿や器）を作ろう～

1 実践にあたって

本校高等部では、週7.5時間の作業学習を設定している。作業班は、野菜や草花の栽培、布製品と紙の置物を製作する農手芸班、お盆や木製プランターを製作する木工班、様々な形の皿や花びんを製作する窯業班の3つに分かれて活動している。本報告は、窯業班の活動実践報告である。

バザーに向けての製品作りを通して作ることの楽しさや喜びを味わい、また、バザー当日は自分たちの作った仕上がりの良い製品が売れる喜びと充実感を得てほしいと考えた。

2 活動より

窯業の作業を初めて行う生徒がほとんどである。そのため個々の興味や関心、得意なことを踏まえ、生徒に合った作業を選び、役割を固定して取り組むようにした。基本的には土練機を使った粘土再生、たたらし、プレス、カット成形、型抜き、模様付け（化粧泥の塗布と磨き）、仕上げ磨きにほぼ毎日継続して取り組んだ。また、器用な生徒は手指技能を生かし、流し込みや電動ろくろを使って茶碗や花びんの製作にも取り組んだ。

電気窯を使い、素焼き、釉薬付け、本焼きを繰り返して数多くの製品を完成させることができた。焼きあがった製品には、釉薬や粘土の粒子が付着しているため、購入した金工やすりを使って削り落とすことできれいに仕上げた。

窯業室は常に粉塵があり汚れている。作業学習終了時には、生徒が水モップで清掃をしている。それでも廊下が汚れることがあるため、購入したシューダスターシートを利用して、靴底の粉塵をきれいに落としてから各教室に戻るようにした。この取組により、廊下や他の教室に粉塵の汚れを持ち込まないようになった。

作業学習の最後に、全体でまとめの会を行っている。工程毎にプレスやスライスした数、土練機に入れた団子の数など具体的に報告した。また、完成した製品の発表も行った。以上の取組により、生徒は製品を完成させるための工程の一部を担っていることや、数多くの製品を作りあげたことが分かるようになった。

3 まとめ

この実践を通し、作業内容を確実に理解して一人で作業に取り組む生徒が増えた。また、次の作業工程を行う生徒や教師とコミュニケーションを取り、お互いを意識しながら良い雰囲気で作業学習に取り組むようになった。さらに、この度購入した物品で、より仕上がりの良い製品作りや環境作りができるようになった。

バザー当日、生徒たちはお客様に積極的な声掛けをし、数多くの製品を買っていただくことができた。

<新庄養護学校の実践について>

レポートタイトル 作業学習 エコワーク班

「コンポスターを使った有機肥料作り」

1 実践にあたって

本校高等部総合コースでは、週9時間の作業学習を行っている。作業学習では、39名の生徒が陶工班、木工班、家庭班、エコワーク班に分かれて活動している。本報告はエコワーク班の実践報告である。粗大運動を中心とした作業内容を取り入れることで、どの生徒も意欲をもって作業に取り組めるようにしたいと考えた。

2 活動より

エコワーク班では、トマト、ネギ、大根などの野菜作りにも取り組んでいる。そこで、給食の残飯をもらい、コンポスターを使って有機肥料作りをすることにした。作業は、教師と一緒に厨房脇から一輪車で残飯を運び、畑のコンポスターに入れ、空になったポリバケツを厨房に返却するという活動である。この活動の結果、半年後にできる有機肥料を、今秋に発芽させ畝に移植したニンニクに追肥料として入れる計画である。

この活動に取り組んだ生徒2名は、卒業後は生活介護を希望している。一定の距離を歩き続けることは歩行訓練にもなり、体力の保持増進につながっている。活動するための身支度を整え、最後まで教師と一緒に活動することができるようになった。

3 まとめ

本実践で、屋外での作業を取り入れることにより、生徒は作業時間を通して活動に取り組めるようになった。また、コンポスターを使った有機肥料作りは、活動に取り組む生徒の意欲につながることができた。